取扱説明書番号
D143-ZGXD

電波時計　取扱説明書

（デジタル電子音目覚まし時計）

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

製造発売元　リズム時計工業株式会社

〒330-9551　埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

(Y1406)

GUARANTEE 保証書

取扱説明書にそった正常な使用状態で、万が一保証期間内に故障がおきた場合、本保証書を添えて時計をお買い上げ販売店にご持参くだされば、無料修理・調整いたします。尚、本保証書の発行によりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。この保証書は、お買い上げ店で発行いたします。必ず※印欄の記入・捺印をお確かめのうえ大切に保管してください。

※品名・型番　8RZ126
※保証期間
お買い上げ　　年　　月　　日より　1年間
お客様ご氏名　　　　　　　　　　様
ご住所
TEL（　　　）　　－
※販売店印（住所、店舗名、電話番号）

●本保証書は再発行いたしません。　※印は販売店記入

保証について

■次のような場合には、保証期間中でも有料修理になりますので、ご注意ください。
1.保証書のご提示がない場合。
2.保証書の※欄に記入・捺印のない場合、字句を書きかえられた場合。
3.お買い上げ店以外の販売店にご依頼の場合。
4.お客様のお手元に渡ってからのお取り扱いや輸送での落下など異常な衝撃による故障、または損傷。
5.天災・火災または異常な塩分・酸・蒸気・熱・有毒ガスなどの影響による故障、または損傷。
6.お客様による修理・改造などが原因で故障した場合。
7.ご使用中に生じる外観上の変化（ケースなどの小キズ）。
8.電池の交換。

送料・出張料は、実費をお客様にご負担願います。
●部品の保有期間などアフターサービスについては、取扱説明書に記載してあります。
●この保証書は国内のみ有効です。
This guarantee is valid only in Japan.
●ご記入いただきました個人情報は、時計の修理・調整に関するご連絡に利用させていただきます。

■販売店の方へ
この保証書は、お客様へのアフターサービスの実施と責任を明確にするためのものです。ただし、貴店で別に保証書を発行する場合は、この限りではありません。

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について
電子回路などの修理用性能部品は製造打ち切り後、3年間を基準に保有しています。ただし、ケースなどの外装部品の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただくことがあります。

●修理可能期間について
無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理内容や送料により、修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合
お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

この製品のサービスおよび技術サポートは日本国内でのみ利用可能です。
Service and technical support for this product are available only within Japan.

お問い合わせ先

お客様相談室　（フリーダイヤル）0120-557-005
受付時間 9:00 ～ 17:00（土日、祝日および当社休日を除く）
お問い合わせに際しては、製品番号（型番）「8RZ126」をお伝えください。

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

図記号の説明
⃠は、禁止（してはいけないこと）を示しています。
❗は、指示する行為を必ず守ることを示しています。

⚠警告　死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

必ず守る

誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない
万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

禁止

電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために次のことを守る
●電池をショートさせない。
●電池を充電しない。
●電池に傷をつけない。
●電池を分解しない。
●電池を加熱しない。
●電池を火の中に入れない。

電池から漏れた液に触れない
●目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。
アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。
●液漏れしたときは、電池を取り外して、漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

⚠注意　傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

必ず守る

電池の⊕⊖を正しく入れる
逆向きに入れると液漏れや発熱の原因となります。

禁止

強い振動や衝撃を与えない
故障や破損の原因になります。

浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になる所では使わない
さびや故障の原因になります。

ぬれた手で触らない
故障や誤作動の原因になります。

分解禁止

分解や改造をしない
けがや故障の原因になります。

禁止

下記のような場所では使わない
性能の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。
●直射日光が当たる所。
●暖房機器などからの風が直接当たる所。
●火気のそば。
●温度が+50℃以上の所。
●温度が−10℃以下の所。
●ほこりが多く発生する所。
●強い磁気を発生させる機器のそば。
●車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
●プール、温泉場などガスの発生する所。
●調理場など多くの油を使用する所。
●ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質をすることがあります。

お手入れについて

●汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
●ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。

電池、時計の廃棄

●お住まい地区自治体の指定に従ってください。
●電池と時計を分別して廃棄してください。

静電気による誤作動について

静電気の影響により、表示が欠けたりして正常に機能しなくなることがあります。このようなときはリセットを押してください。

電池のご注意　（電池の正しい使いかた）

電池のご使用上のポイント　正しく使って事故をなくしましょう

●プラス（＋）、マイナス（−）を間違えない。
●種類の異なる電池を混ぜない 。
●長期間使用しないときは電池を取り外す。
●電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
●幼児の手が届かない所に置く。
●古い電池と新しい電池を混ぜない。
●時計が動いていても定期的に交換する。
●時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
●電池を新しくするときは、全部取り替える。

電池の種類について

●アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
●一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

電池の寿命について

●電池寿命は温度などの使用条件により、製品仕様より短くなることがあります。

電波時計について

電波時計とは

クオーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な日時に修正する時計です。
標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2ヵ所にあります。

電波の受信範囲について

送信所から約 1200km 離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害（太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯（昼／夜）あるいは地形や建物の影響など）により、受信できないことがあります。
※標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。(http://jjy.nict.go.jp)

この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った日時を表示することがあります。**海外でご使用になるときには、電波受信機能をOFFにして手動で日時を合わせてお使いください。**

おもな製品仕様

項目	仕様
使用温度範囲	−10 ～ 50℃ ＊結露しないこと（液晶表示可読温度範囲0～40℃）
時間精度	電波受信成功直後の表示精度　±1秒 標準電波を受信しない場合 平均月差 ±30 秒（常温中のクオーツ精度）
使用電池	単3形マンガン乾電池 JIS規格 R6P 2個
電池寿命	約1年 1日当たりアラームを音量大で30秒鳴らし、照明を3秒点灯した場合
標準電波機能	標準電波受信により自動時刻修正
受信局	福島局 / 九州局自動選択
受信ON／OFF	あり
受信回数	1日8回
受信開始時刻	1時から4時、13時から16時の時間帯の16分40秒
アラーム機能	設定した時刻にアラームを鳴らす
アラーム精度	表示時刻に対して ±0秒
アラーム音	電子音（鳴り方が変化）
音量	大 / 小　選択方式
スヌーズ機能	あり（止めても鳴る）
オートストップ機能	あり（自動鳴り止め）
カレンダー	2011～ 2099 年対応
時刻表示形式	12時間／24時間　選択方式
照明	液晶表示部を LED で照明
防水機能	なし
温度	
表示範囲	−9.9 ～ 50℃
温度の精度	±2℃
湿度	温度が5 ～ 50℃のときに表示
表示範囲	20～95%RH ㈿
湿度の精度	±10%RH
測定間隔	1分間隔

㈿%RHは相対湿度を表しています。天気予報など一般には%が使用されています。
※液晶はその特性上、0℃以下になると表示反応が遅くなったり、表示が薄くなることがあります。40℃以上になると表示が濃くなったり、ムラに見えることがあります。
※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなることがあります。
※電池は、アルカリ乾電池を使用することができますが、他の種類と混ぜて使わないでください。
※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品　取扱説明書・保証書　本書

電池は付属しておりません。単3形マンガン乾電池2個、または単3形アルカリ乾電池を2個ご用意ください。

1 使いはじめるとき　電池を入れて、標準電波を受信して日時を合わせる

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときには、（手動での時刻合わせ）をお読みください。

※図は操作説明用です。実際の商品と異なることがあります。

電池ぶたを開けて、電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて、単3形乾電池を2個入れ、電池ぶたを閉じてください。

⚠ **注意**　電池の⊕⊖を指示と逆向きに入れると液漏れ、発熱、破裂の危険性があります。

○注意報の項目は常時表示。条件が該当すると点滅表示。
○アラームスイッチがOFFのときは、月日を表示し、「小」「大」にあるときには、アラーム時刻を表示します。
※表示を見る方向により、ムラに見えたり、時刻が読み取りにくくなることがあります。
※転倒や落下を防ぐために、水平で振動の少ない安定した所に設置してください。

電波を受信しやすい窓際などに置いてください。

❶ 電池を2個入れる
電池を入れると「ピー」と鳴ります。
短い時間に電池を入れ替えすると鳴らないことがあります。

❷ 楊枝（ようじ）などでリセットボタンを押す
「ピー」と鳴って、受信マークが点滅し受信を開始します。
※ 必ず電池を入れた直後に押してください。
※ 受信中はボタンに触れないでください。

❸ 21分待ってから受信結果を確認する
受信は、最長で21分行います。受信マークで受信結果を確認してください。
→【受信の流れと表示】参照

電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に**＋**または**−ボタン**を押すか、**時刻合わせボタン**を約2秒間押し続けると、受信マークが消灯して、受信を中止します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った日時を表示することがあります。
- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 地下、ビルの中、ビルの谷間など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品や OA 機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く

チェック！
1～2分経過しても①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えて**リセットボタン**を押し、再度受信を開始させてください。

【受信の流れと表示】

〈リセット直後〉　〈受信開始〉

電源投入直後およびリセットボタンを押した直後は、2011年1月1日 午前12:00、アラーム時刻 午前6:00に設定されます。

受信中の受信マークの変化（電波サーチ機能）
電波の状態により変化します。

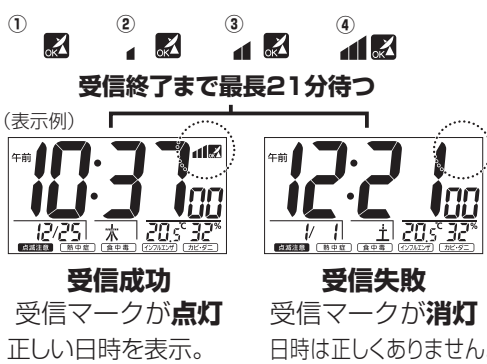
受信できない → 受信しやすい
① ② ③ ④

受信終了まで最長21分待つ

（表示例）

受信成功
受信マークが**点灯**
正しい日時を表示。

受信失敗
受信マークが**消灯**
日時は正しくありません。

- 受信マークは受信成功後、24～25時間点灯。
- 受信に成功しても、電気的なノイズにより誤った時刻や日付を表示することがあります。このようなときには、場所を変えてリセットボタンを押して再度受信を試みてください。

標準電波を受信できない場合

●朝までそのままにしておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。

●場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、電波の送信所に時計の正面または裏面が向くように置き直し、リセットボタンを押して結果を確認します。

標準電波を受信できないときには、手動で日時を合わせてご使用ください。

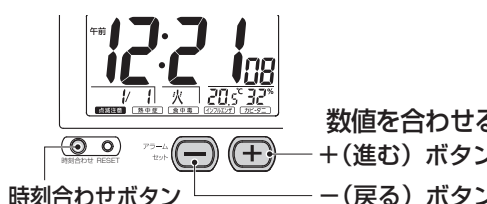
手動での時刻合わせ …… 電波が受信できないとき、任意の日時に合わせるとき

操作例に従って、西暦年、月、日、時刻（時、分）の順に設定してください。

年月日、時刻（時・分）でのボタン操作

点滅している数値を**＋**または**−ボタン**で合わせてから**時刻合わせボタン**を押すと数値を確定して次のステップに進みます。
＋、−ボタンは押してすぐ離すと1つ単位に、押し続けると連続して変わります。

数値を合わせる
＋（進む）ボタン
−（戻る）ボタン

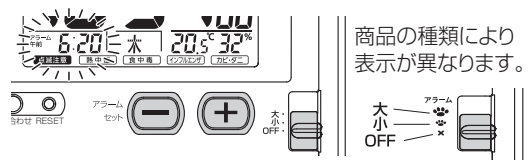
操作例　2014年12月25日　午前10:37に合わせる

西暦年が点滅するまで時刻合わせボタンを約2秒間**押し続ける**
①年を合わせる
②月を合わせる
③日を合わせる
④時を合わせる
⑤分を合わせる
分のとき、＋または−ボタンを押すと秒が00になる
以上で設定が終わりました。

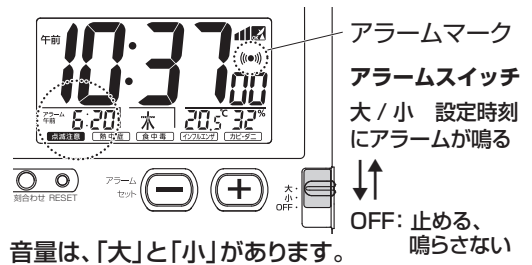
- 約30秒間ボタン操作を中断すると、表示されている内容で設定を終わります。
- アラーム時刻またはアラームマークが点滅しているときは、日時の設定はできません。
- 標準電波を受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。

2 アラーム機能を使う

■ アラーム時刻を合わせる

①アラームスイッチをOFFにする
②＋または−ボタンを押してすぐ離す
「アラーム」が点灯して、アラーム時刻が点滅。
③＋または−ボタンでアラーム時刻を合わせる
④約5秒間ボタン操作をしないと設定を終わる
＋、−ボタンは押してすぐ離すと1分単位に、押し続けると連続して変わります。

12時間表示のときは午前/午後の表示に注意

■ アラームスイッチのON/OFF設定

ONにするとアラームマークが点灯して、アラーム時刻を表示

音量は、「大」と「小」があります。

◎オートストップ機能（自動鳴り止め）

鳴っているアラームを放置すると約2分間で止まります。

◎スヌーズ機能（止めてもまた鳴る）

アラームが鳴っているときに、スヌーズボタンを押すと、アラームマークが点滅して約5分間アラームが停止してからまた鳴りだします。この操作は7回まで繰り返すことができます。
8回目にスヌーズボタンを押すと、アラームマークは点灯表示になります。アラームを止めるには、アラームスイッチをOFFにします。

◎アラーム音の試聴するには

アラーム時刻を現在時刻より、1～2分進んだ時刻に合わせて、アラームスイッチを「小」または「大」にしてください。設定した時刻にアラームが鳴り出します。

アラームご使用上の注意

アラームスイッチがONのときは、毎日アラームが鳴ります。

3 温度・湿度・注意報について

センサーが本体内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。
直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿機、除湿機などの近くでは、室内の温度・湿度を反映しにくくなります。
※湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しのよいところと悪いところでは違いがでてきます。また、設置する高さによっても温度・湿度が変わります。
※本製品は一般的な家庭やオフィスなどの室内用です。
※厳密な温湿度管理や温湿度の証明には使えません。

■測定範囲を超えたときの表示とその意味

温度「HH.H」50℃より高温　「LL.L」−9.9℃より低温
湿度「HH」95%を超えている　「LL」20%未満　「--」測定不能（温度が5～50℃の範囲外）

■温度･湿度が発生しやすい条件のときに注意報が点滅表示

熱中症	高温環境下で発症しやすくなります。
食中毒	菌が増殖しやすくなります。
インフルエンザ	インフルエンザウイルスによる感染が起こりやすくなります。
カビ・ダニ	カビやダニの生育に適した条件です。

※注意報は、発生の有無を断定するものではありません。空調や体調管理などの目安としてお使いください。また、公的機関から発表される「注意」や「警報」とは一致しないことがあります。

4 時刻表示形式を切り替える

時刻合わせボタンを押してすぐに離すと12時間表示と24時間表示（0:00₀₀～23:59₅₉）が切り替わります。
次の状態のときは、表示の切り替えが出来ません。
- 電波の受信中。
- アラームが鳴っているまたはスヌーズ状態。
- アラーム時刻、日時の設定中。

5 表示面を照明する

スヌーズボタンは、ライトボタンを兼ねています。
ボタンを押すと表示面が約3秒間照明されます。
照明をしたときは、時計上方より見てください。
※明るい所では、照明の効果は確認できません。

電池の交換について　早めに交換して液もれを防ぎましょう

⚠ **注意**　**電池からの液漏れにより、時計の修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。電池からの液漏れや発熱、破裂を防ぐために、次のことをお守りください。**

- 液晶表示が薄くなったり、アラーム音が鳴らなくなったときは、速やかに電池を交換するか、電池を取り出す。
- 動いていても1年に1回定期的に交換する。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。

※電池は、同じメーカーの同じ種類の電池を使用することをお勧めいたします。

電波受信機能のON/OFF切り替え操作

受信機能 OFF（日時を標準電波で修正しない）

リセットボタンを約1秒間隔で3回押してください。
○「ピィ」と鳴ってから押してください。
○OFF になると「ピィ」と鳴りません。
○日時は手動で合わせてください。

受信機能 ON（有効にして受信を開始する）

−ボタンを押しながら、**リセットボタン**を押すと「ピィ」と鳴って受信を開始します。その後に**−ボタン**を離してください。標準電波を定期的に受信して標準時刻に合わせます。

- 受信機能の設定は、電池を抜いて、回路内に電荷がなくなるとONになります。
- 受信機能がONの場合、手動で日時を合わせても、受信に成功すると日時を修正します。
- 操作のタイミングによっては、ON／OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

リセット操作

電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときにリセットボタンを押します。
リセット直後は、2011年1月1日午前12：00、アラーム時刻は午前6：00になります。
受信機能がONのときは、受信を開始します。